

新型コロナウイルス感染対策で長期化する面会制限について ～患者・家族のアンケート調査報告～

施設名：保岡クリニック論田病院

発表者：佐野 京 (介護職)

共同演者：森口 宏枝 (看護師) 中山 初枝 (准看護師) 田畑 晶子 (准看護師)

瀬戸 裕二 (理学療法士) 河野 智奈美 (理学療法士) 海部 恵子 (介護職)

立石 恭子 (事務) 折部 美恵子 (薬剤師)

【はじめに】新型コロナウイルス感染症は現在でも収束の目途が付かず、感染対策も長期化している。そして面会が制限・禁止となっている病院や施設が増えることにより、不安を感じている患者・入居者や家族は少なくはない。その対策として、リモート面会やZOOM面会が積極的に行う病院や施設が増えてきている。当院でもリモート面会を開始しており、入院患者や家族が安心していただけるような取り組みを行っている。今回は当院の取り組みについてアンケート調査を実施し、今後の課題について検討する。

【対象と方法】令和3年5月4日、5日の2日間で入院患者42名のうち、聞き取り可能な患者21名(療養病床6名、地域包括ケア病床15名)と、令和3年5月8日～5月24日で対象患者の家族29名(療養病床19名、地域包括ケア病床10名)の50名を対象とする。入院患者にはアンケート内容の質問を行い、家族にはアンケート用紙を郵送して期間内に返送していただいた。

【結果】面会制限に対して不安を感じているかという質問に対して「はい」と答えたのは38%であり、「いいえ」を下回った。しかし、もし面会が可能であった場合は62%が週1回は面会がしたいという結果となった。面会時間は5分以上30分未満が一番多く、全体の70%を占めた。現在も行っているリモート面会については利用してみたいと思っている対象者は60%であり、特に療養病床の家族79%がリモート面会を利用したいという結果となった。また不自由に感じている事については、「物品供給」と「家族との面会」がそれぞれ34%となり、一番多かった。

【まとめ】今回のアンケート結果により地域包括ケア病床では本人、家族ともに面会制限に不安があまりないが、物品供給と面会で70%不自由を感じていた。一方、療養病床では家族のリモート面会希望者は79%で面会時間も5～30分が88%であった。それらのことより比較的長期入院中の家族は面会制限に不安を感じ、特にコミュニケーション面での不自由を感じる傾向にあることが示唆された。また、現状の来院によるリモート面会では希望に沿うことが難しく、自宅や遠隔可能な場所への環境の設備も今後必要であると考えられる。